

令和2年8月21日

保護者様

米原市立大原小学校

校長 北村 義彦

2学期からの新型コロナウイルス感染症対策等について

昨日より2学期が始まりました。学校教育活動の再開にあたっては、一人ひとりの感染予防に関する行動が、自分の命を、家族を、大切な人を、社会を守ることにつながるという認識を再確認し、教職員、児童、その保護者、その他学校関係者などの全員が、この認識を共有し、基本的な感染症対策を徹底していくことが重要であると考えます。

本校におきましては、引き続き御家庭と連携しながら、下記の対応により教育活動を再開します。前回の学校再開時の内容(5/27付)から一部、変更になった箇所がありますので、必ず御確認いただき、御理解、御協力のほどよろしく申し上げます。

記

1. 家庭との連携について ※ 次の4点(ア～エ)について、よろしく申し上げます。

ア 健康チェックカード(朝の検温、風邪症状の確認、同居家族の健康状態、押印)を毎日提出してください。

イ ①マスク(手作りマスクでもよい)、②ハンカチ、③うがい用コップ、④歯ブラシ、⑤給食時の机拭き用ふきん、⑥ナフキン(給食時に机にひきます)、⑦おはし、⑧健康チェックカード、⑨水筒、⑩マスクを外したときに入れるビニール袋の10点を忘れずに毎日持たせてください。

ウ 十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事で、免疫力を高めてあげてください。

エ 発熱等の風邪の症状がある場合等には登校せずに休養させてください。登校後に発熱(発熱の目安は37.5度ですが、お子さんの平熱を考慮して対応します。)や体調不良が確認された場合は早退させますので、連絡が取れる体制を整えておいてください。

2. 学校における基本的な新型コロナウイルス感染症対策について

(1) 保健管理体制の確立

学校長を責任者とする保健管理体制を校内に構築し、保健主事・養護教諭・各学級担任 などとともに、学校医・学校薬剤師等と連携した保健管理体制を整備します。

(2) 児童への指導

学校生活における一番の感染リスクは、休み時間や登下校など教職員の目が届かない所での児童の行動です。学校生活を始めるに当たり、まずは、児童がこの感染症を正しく理解し、感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとることができるよう、感染症対策に関する指導を行います。

(3) 基本的な感染防止対策

①感染源を絶つこと

※ 特に、感染レベルが高い現在においては、次の点（ア～ウ）に御理解をお願いします。

ア 家庭と連携して、発熱等の風邪の症状がある場合等には児童は自宅で休養することを徹底します。教職員も同様に発熱等の風邪の症状がある場合等には自宅待機とします。

＜感染や濃厚接触者について＞

①児童自身の感染が判明した場合 → 治癒するまで出席停止となります。

②児童自身に発熱等の風邪の症状がみられる場合 → 自宅休養させてください。

（「出席停止」扱い）

※ 同居の家族に風邪症状が見られる場合も登校を見合わせてください。

③児童と同居の家族の感染が判明した場合 → 児童は濃厚接触者として、出席停止となります。

※ 出席停止期間は、感染者と最後に濃厚接触した日から2週間になります。

④児童と同居の家族が濃厚接触者となった場合 → 児童自身は濃厚接触者に当たらないので登校は可能であるが、感染の可能性もあるため、保護者に事情を伺い、校長が出席停止かどうかの判断を行う。

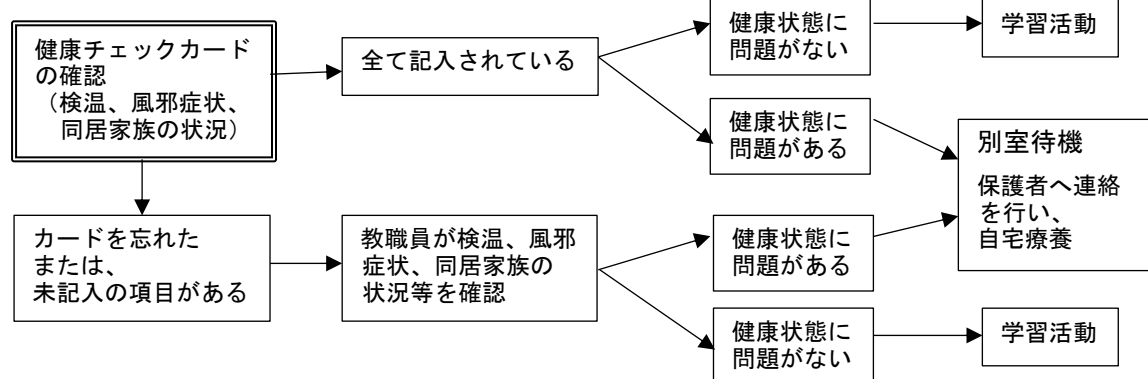
⑤児童の家族の職場に濃厚接触者がいた場合 → 通常登校

⑥保護者から感染不安等で学校を休ませたいという相談があった場合 保護者から事情を伺い、校長が出席停止かどうかの判断を行う。

イ 登校時、児童の検温および同居の御家族も含めた健康状態等を、「健康チェックカード」を活用して把握します。同居の御家族の健康状態に異常があれば、「健康チェックカード」の「家庭からの連絡」欄に御記入ください。（お電話による連絡でも結構です。）

ウ 登校後に、発熱等の風邪の症状がみられる場合には、児童を帰宅させ、症状がなくなるまでは自宅休養とします。 なお、早退時に保護者の来校まで学校にとどまる場合は、他の児童との接触を可能な限り避けられるよう、別室（保健室など複数教室）で待機させるなどの配慮をします。

＜健康チェックカードを使用した登校時の健康観察＞



②感染経路を絶つこと

ア 接触感染を避けるために、手洗いを徹底します。外から教室等に入る時やトイレの後、給食の前後など、こまめに手洗いの機会を設定します。手洗いは水と石けんで行います。また、手を拭くタオルやハンカチ等は個人持ちとして、共用はしないこととします。石けんやアルコールに過敏に反応したり、手荒れの心配があったりするような場合

は、流水でしっかり洗うなどして配慮を行います。併せて、うがいの機会もこまめに設定します。

- イ 飛沫感染を避けるために、咳エチケット（感染症を他者に感染させないために、咳・くしゃみをする際、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえること）を徹底します。
- ウ 教室やトイレなど児童が利用する場所のうち、特に多くの児童が手を触れる箇所（ドアノブ、手すり、スイッチなど）は、毎日の放課後に職員が消毒液を使用して清拭します。

（４）集団感染のリスクへの対応 ※いわゆる「３密」を避けるために

①「密閉」の回避（換気の徹底）

- ア 換気は、可能な限り常時、あるいは毎時間ごとに、2方向の窓を同時に開けて行うようにします。各教室のろうか側の天窓は常に開けておきます。
- イ 体育館のような広く天井の高い部屋であっても換気に努めるようにします。
- ウ エアコンを使用時は、エアコンは室内の空気を循環しているのみで、室内の空気と外気の入れ替えを行っていないことから、エアコン使用時においても換気は行います。

②「密集」の回避（身体的距離の確保）

国の示す「新しい生活様式」では、人との間隔は、できるだけ2メートル（最低1メートル）空けることを推奨していますが、各教室においては、施設等の制約から1メートルの距離を確保できない場合があります。その場合はできるだけ距離を離し、換気を十分に行うことや、マスクを着用することなどを併せて行うことにより、リスク軽減に努めます。

③「密接」の場面への対応（マスクの着用）

- ア 学校における教育活動においては、近距離での会話や発声等を行う場面が多いため、飛沫を飛ばさないよう、児童および教職員は、基本的には常時マスクを着用することとします。
- イ ただし、気候の状況等により、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すこともあります。その際は、換気や児童の間に十分な距離を保つなどの手立てを講じます。
- ウ 体育の授業では、マスクは着用しなくてもよいこととします。ただし、換気や児童の間に十分な距離を保つなどの手立てを講じます。
- エ 休み時間は、マスク着用とします。
- オ 登下校のマスク着用は、保護者の判断によるものとします。

3. 具体的な活動場面ごとの感染症予防対策について

（１）学習指導全般について

- ア 学習内容の積み上げを大事にしながら、各活動の指導時間数に軽重をつけて指導を進めます。
- イ 一学期と同様に、前を向いての授業スタイルとし、ペア学習・グループ学習や近距離で一斉に大きな声で話す活動はできるだけ行いません。
- ウ 集会等は当面は行いません。

（２）各教科等の指導において、個別にリスクが心配される活動と対応

- ア 理科・・・児童同士が近距離で活動する実験や観察は、できるだけ行いません。

- イ 音楽科・・・児童が近距離で行う合唱およびリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の楽器演奏は、できるだけ行いません。
- ウ 家庭科・・・調理実習は行いません。
- エ 体育科・・・児童が密集したり組み合ったり接触したりする運動は、できるだけ行いません。

(3) 給食

- ア 児童全員の石けん手洗いを徹底します。
- イ 給食当番は、マスクとエプロン着用を徹底します。
- ウ 給食準備の際には、給食用アルコールで、給食配膳台と児童用机を消毒します。児童用机は、教師がアルコールをかけて、児童が自分のふきんで、から拭きをします。(ふきんは、給食袋に入れて持ち帰ります。)
- エ 児童は、消毒された机の上にナフキンをひいて、自席で配膳を待ちます。
- オ 会食時は机を向かい合わせにせず、飛沫が飛ばないように指導します。

(4) 清掃活動

清掃活動は、学校内の環境衛生を保つ上で重要ですが、共同で作業を行うことが多く、また共用の用具等を用いるため、換気のよい状況で、マスクをした上で行うようにします。また、掃除が終わった後は、必ず石けんを使用して手洗いをを行うようにします。

(5) 休み時間

- ア 休み時間中の児童の行動には、教員の目が必ずしも届かないことから、児童本人に感染症対策の考え方を十分理解させるとともに、会話をする際にも、一定程度距離を保つことや、お互いの体が接触するような遊びは行わないよう指導します。
- イ ボールや本など、共用の用具等を用いるため、休み時間の終わりには、石けんを使用して手洗いをを行うように指導します。

5. 体調不良を申し出た児童への対応について

発熱等の風邪の症状がみられる場合には、児童を帰宅させ、症状がなくなるまでは自宅休養とします。なお、早退時に保護者の来校まで学校にとどまる場合は、他の児童との接触を可能な限り避けられるよう、別室（保健室など複数教室）で待機させるなどの配慮をします。